

＜学校教育目標＞
すべての子どもに
生きる喜びと
あすをつくる力を



わかえっ子

東大阪市立若江小学校
学校だより
令和4年10月号

あの頃の本

教頭 入口 浩樹

「読書の秋」と言われることがありますが、読書と秋の関係は夏目漱石の小説にも綴られています。

「そのうち与次郎の尻が次第に落ち付いて来て、燈火親しむべしなどという漢語さえ借用して嬉しがるようになった」（夏目漱石『三四郎』より）

『燈火親しむべし』は、漢詩の一節を元に書かれたものです。意味は、「秋になると、涼しくなり、夜も長くなって、燈火、つまり明かりの下で読書するのに適している」ということです。気温や周りの暗さが読書をするのにちょうどいいと感じたようです。

10月27日～11月9日は、読書週間です。秋の夜長に鈴虫たちのメロディーをBGMに、昔読んでこのある本を久々に鑑賞するのもいいかもしれません。また、お子さんと一緒に、当時読んでいた本と一緒に読むのもいいかもしれません。あの頃の自分と重ねながら、お子さまと交流するのも一興です。同じ本でも環境や読み手などが変われば、感じ方が変わるものです。お忙しい中とは存じますが、少しだけお時間を割いていただければ、幸いです。



『自立 かおをあげていきること』

自律 うつくしくいきること あたらしいじぶんをつくること』



最近お気に入りの作家、伊吹有喜^{いぶき ゆき}さんの『なでしこ物語』の中の言葉です。

子どもだって大人だって、生きていたら楽しいことばかりではありません。私も失敗だらけです。そんな時、「顔をあげて」「昨日の私よりも新しい、今日の私を作らないと！」と思うと、わくわくすることが不思議と見つかるものです。自分を変えられるのは自分だけですからね。

本との出会いは何十年も前、5歳頃です。本が今ほど高価ではなかったあの頃、実家には月に1度「本の日」がありました。父のお給料日家族全員が本屋に集まり、1冊を自分で選んで買ってもらいます。父はレジの横でにこにここと、ずっと待ってくれました。

表紙の美しさから集め始めたディズニースシリーズ、モモちゃんにパディントン、大どろぼうホッツエンプロッツ、コロボックルシリーズ……。今も本屋さんが大好きで、1冊はかばんに入っています。私にとっての読書は、ふだんなかなか会えないお友だちとおしゃべりする感覚です。夢中になりすぎて、よく電車を乗り過ごします。

「本を読んだら賢くなる」「想像力がつく」とよく言われますが、人それぞれだと思います(笑)。実際、朝読の1番の効果は、「読むこと」自体ではなく、学校に着いてすぐに、少しの時間リラックスして静かに過ごすことで「学習に向かう姿勢が整うこと」と、統計で出ています。だから、活字が少し苦手な方は、好きな動物の写真集や図鑑や絵本など、自由に楽しんでほしいと思います。

私に、本屋のお仕事を1から教えて下さった尊敬する店長さんは、「子どもは、好きなもの読めばいいんだよ」と、いつもおっしゃっていました。

若江小学校の図書室には、たくさん本があります。本を選んでいる皆さんを見ていると「なんて素敵なお仕事に巡り会えたのだろう！」と幸せな気持ちでいっぱいになります。とにかく、気になる本があればどんどん手にとってみて下さい。木曜日、本たちと一緒に図書室で待っています。

学校司書

野畑明子